

食べたいな、昔ながらのアノ味

～「寺社柿」と「川ガニ」を紹介～



集荷場は柿の山……。 (新保、昭和36年頃)

小須戸地区には早生寺社柿という竜玄新田が原産地の渋柿があるので紹介します。

この寺社柿は早く出荷ができて、生産地の新保の古老が「味は柿の中では最高」と自慢される位、糖分、水分が多く肉質が軟らかで上品な風味を持ちサイズも大きい品種です。

【柿の由来等は別表参照】
この竜玄生まれ新保育ちの「寺社柿」が、現在風前のともし火の状態になっています。現在も生産者の一人である川瀬弘一さんによれば最盛期の頃は畑という畑に寺社柿が植えられて生産され、「柿の

小須戸原産の幻の柿

昔から地域に根ざしている食べ物はたくさんあります。今回は今後、後継者が少なくなり、あまり食べる機会がなくなった「寺社柿」と「川ガニ」を取り上げてみました。

年代で見る新保寺社柿の变革

年代	寺社柿の移り変わり (主な出来事)
明治5・6年	竜玄の丸山稲造氏宅にあった寺社柿の枝代わりを、同村の渡辺利惣左衛門氏が発見し早生種で優良な実をつける「早生寺社柿」として広めた。
大正初期	当時、新潟の商人が買い集め「渡場」から船で新潟へ運んでいた。その後、新保で「脱渋」(渋抜き)して食用に供するようになった。
大正10年	新保に「早生寺社出荷組合」が結成され、主に北海道に出荷された。
昭和4年	脱渋(しぶ抜き)方法も「湯ざらし」から「炭酸ガス」に変更した。
昭和10年	出荷量も300トンに達し、矢代田駅から貨車で北海道へ出荷され、組合は花火をあげて豊作を祝い、寺社柿は世に広まった。
昭和17年末	耕地整理が実施され約15ヘクタールの柿畑も3分の1に激減し、打撃を受けた。加えて戦時下の統制による肥料の入手困難と人手不足などで急激に生産量が減少して終戦。
昭和24年頃	宮内庁の許可のもと、皇居に献納され植栽されたが、おけさ柿が各県で増産されてブームを呼び寺社柿の生産もしだいに減少する。
平成元年	100戸近くあった生産農家も10戸に激減し、柿の木も80本を残すのみで生産量も5,000kg弱となる。
現在	生産農家は、6戸ほどで、柿の木も50本となり、生産量も2,000kgで、今や「幻の柿」となっている。年配の人には懐かしい味である。

林のために新保から町部の方を見渡すことが出来なかったことや「選果場前にリヤカーの行列ができた」こと等、話してくれました。

当時15ヘクタール(小須戸中学校グラウンド75個分)もあったといわれる柿林は主に新保西側農地に植えられていたそうです。

百三十三年もの輝かしい歴史

史と伝説をもつ新保・竜玄の寺社柿も小須戸地区の大事な財産。「柿で生活できる時代じゃないねえ、今は」と言われながらもしっかりと育ち素晴らしい実を付けている寺社柿を、今後はおいしく味わいながら後世に伝えることができたら素晴らしいと思います。(資料提供・間野道英さん)

こすど地区公民館報

発行 小須戸地区公民館
〒956-0101
新潟県新潟市小須戸117番地
TEL (0250) 38-2234
FAX (0250) 38-5210
編集 公民館報編集委員会

ちょこっと一言 (213)

小須戸の夏を満喫初めまして！
スイスから来たガンテンバイン・アニーナです。今年の三月、一年間留学するために日本へ来ました。

現在、小須戸の中野家にお世話になってます。私はこの九ヶ月、小須戸のいろんな行事にホストファミリーと一緒に参加することによって、沢山の思い出



スイス
ガンテンバイン・アニーナさん

を習い始めましたが、スイスにはない太鼓は最初とても難しく感じ、自分にはできるのか不安でした。今は、もう動きにも慣れてお祭りでもたたかせてもらい、貴重な経験ができたと思っています。

太鼓以外にもお祭りの時におみこしを担がしてもらったりして、沢山のひと々と知り合うことができました。おかげでとても充実した夏でした。本当にありがとうございました。

舟の上での重労働、カニ漁

高野茂二さん(小須戸)は、現在七十六歳。終戦後すぐに趣味で漁業を始められ半世紀以上も川での漁を続けている大ベテランです。

漁をされたきっかけは戦前の頃小向に魚とりをしていた家がたくさんあり、魚とりが好きだった高野さんは学校帰りに見に行き見よう見まねで独学ではじめたそうです。

現在は信濃川でのカニ漁が主体でその他にもナマズやコイ、フナを網で獲っています。陸からカニを獲っている人もいますが、高野さんはモーター付のボートで漁を行っています。



「この時の気分が最高なんさ〜」

捕っている川ガニの名称はモズクガニで、体長は大きなものは甲羅の大きさが七、八cmあります。九月上旬から十一月下旬がカニ漁のピークで、気候があつたかいた時に捕れるそうです。

特に十一月中旬に捕れる川ガニは脂がのつておいしい旬の時期にあたります。

しかし旬にあたる時期は、寒いのでカニも思うように捕れず、高野さん自身も「今の時期はひつて、さーめんさん川は」とこの時期の漁がつかないことを教えてくれました。

カニ漁はカニツツという高野さん手作りの仕掛けを川沿いの二十箇所に設置し新鮮な餌を使います。

捕った川ガニは、塩茹でにして、鍋物の中にもそのまま一つ二つ入れるとすごくダシが出て海ガニとは違うおいしさが味わえます。

現在でも信濃川で漁をしている人は少ないそうですが、次の世代になるとゼロに近くなる恐れもあります。

川の魚は活魚じゃなければ商品価値がないことや、生活環境が変わり川のものを食べなくなってきた等、条件は厳しいそうです。とくに高野さんは「川の水をきれいにしていないとだめですね。川水は非常に汚れて全ての魚が減っています」と、信濃川の現状を心配しています。

そんな中、高野さんの長男が二年前からカニ漁の手伝いを始め、今後は父親の跡をつぎたいとのこと。そのことが高野さんの張り合いになっているようです。

にいかた市民文学 入賞・入選作品の紹介

【俳句部門】
佳作 大貫松次郎さん(新保)
筒鳥や風にめくられる登山帳
夕立ちや眼据へたる陶狸
風鈴や暖簾の奥にある茶間

入選 坂井隆思さん(新保)
華道家の名を門柱に揚羽蝶
手話の手の終りは胸にあやめ困

入選 馬場綾子さん(小須戸)
春風とぼた餅重と届きけり
鉄塔を登りきったる春の月

【川柳部門】
入選 高橋ただしさん(小須戸)
一つ欠き一つ満ち足り共白髪

なお、来月号に短歌部門での入選者と作品を紹介いたします。

お知らせ

◎年末年始の公民館休館日
十二月二十九日(木)から、翌年の一月三日(火)まで

なじみの顔に 拍手喝采「芸能祭」



よっ！大統領、待ってました

カメラ散歩



伝統にチャレンジ……ガンバレ！

～おわび～
先月号の公民館報で、名前の誤りがありましたので、訂正します。
(誤) 砂井昭七 (正) 砂井正七

ふれあい電話相談

教育相談をはじめ、いろいろな電話相談に応じます。
◆1月の相談日
12月(火) 13日(水) 20日(火) 27日(火)

◆受付時間 午後1時～5時
◆電話番号 38-3300
◎お名前は、言わなくていいです。

第60回 県展入選作品の紹介 (6)



野崎義和さん

写真部門

「祖父のヒゲそり」

祖父は現在週3回、緑花園に通っています。近所のみなさん、緑花園の皆さん、ありがとうございます。

米山栄子先生の指導のもと、パンフラーワーを始めて六年が経ちました。現在、毎月二回、土曜日の午後一時から四時に指導していただいています。パンフラーワーは二種類の樹脂粘土を混ぜてその粘土に色を混ぜこみ使います。その粘



楽しいメンバーです。一度遊びに来て～。

シリーズ 活動の集だち

つくる喜び……最高!

土で花や葉を作って自然乾燥します。その後絵具で色を塗り、組み立てて作品の出来上がりです。

作品を作るのが大変な時もあるのですが、そんなことも忘れてしまおうと作品が完成すると、とても嬉しくてまた次は何を作ろうかと意欲が湧きます。

教室は真剣にやっている時もあるけれど、和気あいあいとお話をしながらやったり、少し手を休めてお話ししたりと和やかにやっております。

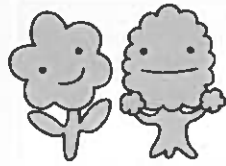
先生が丁寧に教えてくださいますので、どなたでも作れるようになります。

興味のある方は、市民展や二月のロビー展、教室での作業をお気軽に見に来て下さい。(代表・荒井慶子)

よろしく～! 文化協会のマスコット決まる

～キャラクターのネーミングを募集します～

この度の小須戸地区市民展で同地区の文化協会のシンボルマークを3種類の中から選ぶ人気投票をしたところ、花と緑をイメージしたマスコットに決まりました。



(作者) 小須戸出身のイラストレーター 大藪久子さん(東京在住)

小須戸地区文化協会

※ いい名前があったら公民館へお知らせください。☎38-2234

声の広場 「ミクロの世界」の第一人者 小林米作追悼上映会に参加して

期待していた上映会の夕方より、烈しい雷雨で観客が少なく残念でした。しかし少数でも熱心な集まりでした。百歳の小林さんの言葉から「生まれたところは新潟市の中蒲原です」には忘れ得ぬ故郷を偲ぶ心が察せられました。ミクロの世界の映写技術の辛苦の努力にはただただ頭が下がると同時に強靱な体力と並々な忍耐力の持ち主でいられたことがわかり医学界・薬学界に多大な功績を残されたことは、本当に世界のエリートさんと思えました。百歳の誕生パーティーに少年時代に音楽好きであったこと、小学4年で父亡き後北海道旭川の身内に預けられ子守までして頑張ったが、

やはり寂しかったと何度も述べられていたのが印象的でした。喜寿の祝いのパーティーの折の小林さんの姿は40代50代位に見え驚きましたがさすが百歳まで生きるエネルギッシュなお顔が溢れていました。百歳の誕生パーティーには、お子さん、お孫さんのファミリーコンサートで祝われた姿に美しく楽しい一家の姿に安らぎを覚えました。百歳になっても小須戸への望郷の心を持っていられたことに痛切に感動させられました。

追悼上映会は去る11月25日(金)の晩に、小須戸地区公民館の1階ロビーで開催しました。

催し物のご案内
おはなしのせかいへ
「クリスマス会」
日時 十二月十七日(土)午前十一時半から
会場 小須戸地区公民館
対象 幼児から大人まで
読み手 おはなしほけつと
◎(冬休み)わんぱく広場
大学生と一緒に遊ぼう
楽しくて、ゆかいなゲームやダンスを大学生から教えてもらい、笑いで寒さを吹き飛ばそう。
良い子のみんな大勢来てね。
日時 十二月二十七日(火)
午前十時～十一時まで
会場 小須戸地区公民館(三階)
対象 小学生、幼児とその保護者
指導者 新潟中央短期大学の学生有志
参加費 無料
主催 小須戸地区公民館
新潟市美術館全所蔵作家展
「響く、砂絵師の心」
新潟市美術館では開館二十

周年を記念して「新潟市美術館全所蔵作家展Ⅰ(絵画編)」を三期に分けて開催します。その中で、第二期の期間中に当小須戸出身の砂井正七の作品も岩田正巳や富岡惣一郎等の著名な作家作品と一緒に展示されます。
【第二期の紹介】
日時 一月二十一日(土)～
二月十九日(日)
午前九時半～午後六時
・月曜日は休館日
会場 新潟市美術館(西大畑町)
観覧料 一般六百円、大学生・高校生四百五十円、中学生・小学生三百円
◎土曜・日曜及び祝日は中学生・小学生は無料です。
◎市民割引券は、各会期前に「市報にいがた」に掲載されます。
※詳細については直接、美術館にお問い合わせ下さい。
☎025-223-1622

第34回 芸展入選作品の紹介

洋画
入選 「2005 想い」
村山成夫さん(舟戸)
型にとらわれず、描いて気持ちのよいものを人の目を気にすることなく描きつづけたと思います。

書道
入選 「良寛詩 慨世警語」
間野江里さん(新保)
感動したり、好きな語、詩歌を書きたいと思えます。これも良寛様の命のはかなさ、生き方を詠んだ詩です。

第37回 新潟市展入選作品の紹介

川 (題: サポート)	柳	俳	句	文芸欄
風を背を押されて峠越えました うるさいが親のサポート当てる	親族のサポート嬉し誓詞読む 渡辺信子	紅葉散る女工哀史の峠道 渡辺信子	山門に控える萩の白さかな 井本マツ子	太陽のまだ気の付かぬ石路の花 丸山虚秋
増井都留	岡田良平	佐久間久子	間野幸子	
		五十嵐香月	中野太浪	
		丸山栄子	風間幸子	
		渡辺信子	間野良遊	

シリーズ 「今、子どもたちは」(11)

「ふれあいランチ」 小須戸保育園

我が園では、四・五年前から縦の関係を育てようと「ふれあいランチ」を行っていています。
年長児が各年齢クラスを訪問し、一緒に昼食を食べます。やってみて育っている点は、年長児の箸の持ち方が上手になった・机拭き床拭きを自分から進んでしてくれる・普段ふざける子がきちんと行儀よく食べる・いつも残しがちな年長児が頑張って食べる。
未満児クラスでは、抱っこして絵本を読んでもくれたり、添い寝をして寝かしつけてくれたりしています。ですから、未満児は年長児の言うことをとてもよく聞きます。
各クラス担任は「年長さん

みんなで食べる給食うんめー